

国語 第1学年 こえをとどけよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある4月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「近くの友達と離れた友達では同じ声でよいか」を問い、相手との距離を変えて話し、聞こえ方の返事を基に声を調整する。声の試し方の記録の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)イ	イ 音節と文字との関係，アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに，姿勢や口形，発声や発音に注意して話すこと。
〔第1学年及び第2学年〕A 話すこと・聞くこと(1)ウ	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話す。思考・判断・表現では、相手との距離を変えて話し、聞こえ方の返事を基に声を調整する。交流や試行の前後を比べ、声の試し方の記録を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。〔知識及び技能〕(1)イ)	①「話すこと・聞くこと」において、相手との距離を変えて話し、聞こえ方の返事を基に声を調整している。(A(1)ウ)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 (本時)	○相手との距離を変えて話し、聞こえ方の返事を基に声を調整する。 ○考えた理由を交流し、声の試し方の記録を仕上げる。	知①・思①（学習記録）／態①は関連する学習の記録も合わせて見る。

本時の案

本時の目標：相手との距離を変えて話し、聞こえ方の返事を基に声を調整することができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「近くの友達と離れた友達では同じ声でよいか」 【めあて】相手に届く声の大きさと姿勢について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・近いときは小さめでも聞こえた。 ・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。大声なら必ずよいと考える姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 （ 分）	2 相手との距離を変えて話し、聞こえ方の返事を基に声を調整する。 3 話し手と聞き手を交代し、相手が伝えた内容を確認して質問や応答を返す。 4 「近くの友達と離れた友達では同じ声でよいか」を観点に、伝わった内容と伝わりにくかった点を確認、もう一度話したり聞いたりする。 〈予想される児童の反応〉 ・近いときは小さめでも聞こえた。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	聞き手が聞き取りやすかったかを伝え、無理な声を出さず試す。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確認、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①相手との距離を変えて話し、聞こえ方の返事を基に声を調整している。(A(1)ウ)（発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録）
まとめ （ 分）	5 声の試し方の記録を確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】声の出し方は、音の特徴と聞き手への伝わり方を確かめながら調整する。 6 最初から変えた点、理由を確認して残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。近くの友達と離れた友達では同じ声でよいかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（声の試し方の記録と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には相手に届く声の大きさと姿勢を確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に声の試し方の記録で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、大声なら必ずよいと考えることである。聞き手が聞き取りやすかったかを伝え、無理な声を出さず試す。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

声の試し方の記録

「近くの友達と離れた友達では同じ声でよいか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。聞き手が聞き取りやすかったかを伝え、無理な声を出さず試すための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_1_202503.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重